

「地域のことは地域で支える」 その思いから、住民主体の支援のしくみが誕生した。

地域には、障がいのある方や日常生活で困りごとを抱える方が暮らしています。その方々を地域全体で支えようと、地域住民が立ち上がり、令和6年度から2年間活動を続けてきました。この2年間で、地域住民による支援体制は大きく向上しました。

盲導犬ユーザーからの相談を受けて始まった取り組み

令和5年度、盲導犬ユーザーの視覚障がい者から岡崎市ボランティアセンターへ相談が寄せられました。

内容は、散歩中に盲導犬がいたずらを受けたことが原因で体調を崩し、盲導犬協会から「ユーザーと盲導犬のみでの外出を控えるように」と指導があったため、盲導犬と2人だけで散歩に出られなくなってしまったというものでした。

さらに、夏場はアスファルトが高温になることで盲導犬の足への負担が大きく、早朝に散歩をしたいものの、時間帯の関係で福祉サービスのヘルパーなど公的制度の利用が難しく、散歩に出られないという課題も抱えていました。こうした状況から、「早朝の散歩に同行してくれる地域ボランティアを探してもらえないか」という切実な相談がありました。

この相談を受け、令和6年度からボランティアセンターでは早朝の散歩同行が可能なボランティアの募集を開始しました。併せて、同じ地域に住む学区および隣接学区の総代や学区福祉委員長にも協力を依頼し、地域住民への呼びかけを行いました。

呼びかけの結果、多くのボランティアが登録・活動

地域への呼びかけの結果、学区外からの12名を含む23名の住民の方々がボランティア登録し、盲導犬ユーザーの散歩同行に協力してくださいました。

活動は7月から10月中旬までの夏から秋にかけて、週5～6日のペースで実施されました。ボランティアセンターがマッチングや日程調整、依頼者との連絡を担ったことで、スムーズな活動につながりました。

盲導犬の運動不足の解消や体調の安定にもつながり、活動の大きな成果が見られました。

住民からの言葉で、支え合う力がさらに前へ

2年目となる令和7年度には、地域のつながりがさらに深まり、学区福祉委員がマッチングから調整窓口まで担う体制へと発展しました。しかし、顔も知らないボランティア同士が、メール等で直接つながることには抵抗があるという意見もありました。そこで、個人宛てには送れないオンライン掲示板を活用し、活動中の困り事や情報共有を行いました。活動後の相談も地域内で完結できるようになりました。

また、「誰がどの日にボランティアをしたいのか」「担当日を決める事務局を誰が担うのか」といった課題もありました。そこで共有カレンダーアプリを活用し、活動希望者が事前に希望日を入力・共有することで、スケジュール管理が可能となり、住民主体の支援が実現しました。

学区福祉委員長の「地域のことは地域で支える」という言葉と想いが形となり、ボランティア活動がより身近で、参加しやすいものになりました。

散歩以外の外出でも、地域のつながりが支えに

盲導犬ユーザーからは、次のような感想が寄せられました。

「目が見えないということで、これまではヘルパーさんや知人にしか頼ることができませんでした。そんな中で、同じ地域に住む皆さんが散歩に同行してくださるようになり、本当に助かっています。散歩以外の外出でも、コンビニやスーパーでの買い物、近場への外出など、これまで関わってくださった地域の方やボランティアの皆さんが声をかけてくださるので、とても安心して外出できます。来年度も、協力してくださるボランティアさんがいらっしやれば、ぜひお願いしたいです。」

だれにとっても、安心して暮らせる地域をめざして

地域には、暮らしの中で、お金や制度だけではどうしても解決できないお困りごとを抱えている方も、実はたくさんいらっしゃいます。

岡崎市社会福祉協議会は、これからもそんなお困りごとをお持ちの方々に寄り添い、地域の皆さまと一緒に支え合える仕組みづくりを進めていきます。

「地域のことは地域で支える」

その思いを大切にしながら、安心して暮らせるまちを、みんなで育てていきたいと考えています。

今回の住民主体の支援体制誕生までの流れ

依頼者からの相談

地域内で作戦会議

回覧板を活用にて募集

ボランティア活動の説明会
活動の見学

相談事や活動中の
困った事を
情報共有し、解決！

オンライン掲示板に登録
ボランティア活動保険に加入

共有カレンダーアプリに
活動希望日を入力

活動日を決定

いざ！活動へ

【発行】

令和8年2月24日

愛宕学区福祉委員会

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

